

平成 27 年度 全国学力・学習状況調査  
— 鈴鹿市の教科に関する調査結果概要 —



平成 27 年 10 月

鈴鹿市教育委員会事務局教育指導課

## 目 次

1	調査の概要	1
2	調査結果の概要	2
3	各教科の調査結果	1 2
	小学校 国語	1 2
	国語に関する質問紙調査の結果	1 4
	小学校 算数	1 6
	算数に関する質問紙調査の結果	1 8
	小学校 理科	2 0
	理科に関する質問紙調査の結果	2 1
	中学校 国語	2 4
	国語に関する質問紙調査の結果	2 6
	中学校 数学	2 8
	数学に関する質問紙調査の結果	3 0
	中学校 理科	3 2
	理科に関する質問紙調査の結果	3 3

### 調査結果の見方（学力調査）

「成果として認められる内容」正答率がおおむね 80%を上回るもの

「課題として考えられる内容」正答率がおおむね 70%を下回るもの

○・・・成果

●・・・課題

「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される  
内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～」

（文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター）参照

# 1 調査の概要

## (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

## (2) 調査の対象

小学校第6学年

中学校第3学年

## (3) 調査内容

◇ 教科に関する調査（国語，算数・数学，理科）

【国語，算数・数学】

主として「知識」に関する問題 (A問題)	主として「活用」に関する問題 (B問題)
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など ＜調査時間＞ 各教科 小学校 20分 中学校 45分	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など ＜調査時間＞ 各教科 小学校 40分 中学校 45分

【理科】

主として「知識」に関する問題と，主として「活用」に関する問題を一体的に出題

◇ 質問紙調査

児童生徒に対する質問紙調査	学校に対する質問紙調査
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査 ＜調査時間＞ 20分程度	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

## (4) 調査方式 悉皆調査

## (5) 調査日時 平成27年4月21日（火）

## (6) 鈴鹿市における調査を実施した学校・児童生徒数

	実施 校数	実施人数				
		国語A	国語B	算数(数学)A	算数(数学)B	理科
小学校	30校	1,985人	1,985人	1,986人	1,987人	1,990人
中学校	10校	1,970人	1,972人	1,970人	1,969人	1,970人

## 2 調査結果の概要

### (1) 鈴鹿市・三重県（公立）・全国（公立）の平均正答率

- 小学校・中学校ともに全ての教科において、国平均、県平均を下回っている。（表 1）（表 2）

表 1 平成 27 年度 平均正答率（小 6）（％）

小6	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
鈴鹿市	67.1	65.0	73.0	42.5	58.2
三重県 (公立)	68.0	65.3	74.8	44.1	59.2
全国 (公立)	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8

表 2 平成 27 年度 平均正答率（中 3）（％）

中3	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
鈴鹿市	73.1	62.8	61.6	38.4	51.1
三重県 (公立)	75.0	64.3	64.3	40.6	51.9
全国 (公立)	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

### (2) 平均正答率 経年比較

- 平成 19 年から平成 27 年までの平均正答率の変動は、国や県の動きとほぼ似た動きとなっている。（図 1～図 10）
- どの教科も国の平均正答率に達することはできていない。しかし、国の平均正答率と鈴鹿市の平均正答率の差をみると、小学校の場合は算数 B 問題を除き、全てにおいて全国平均との差が縮まった。特に、理科においては、平成 24 年度の 5.3 ポイントから 2.6 ポイントの差となっている。（表 3）（図 11）
- 中学校においては、国の平均正答率との差が広がっている。（表 3）（図 12）

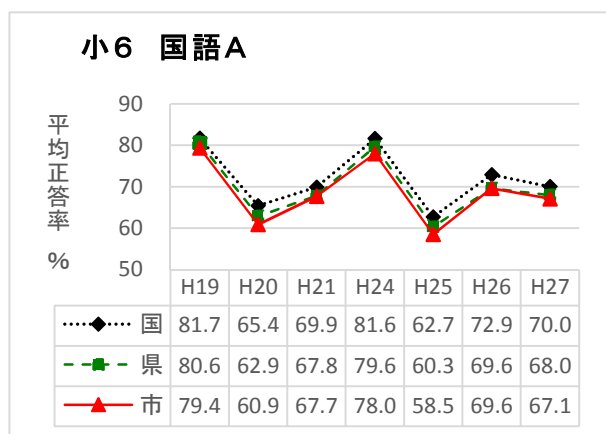


図1 平均正答率 国・県との経年比較（小6 国語A）

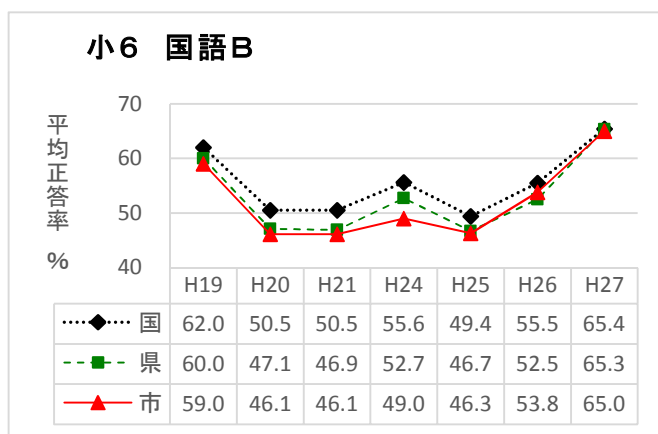


図2 平均正答率 国・県との経年比較（小6 国語B）

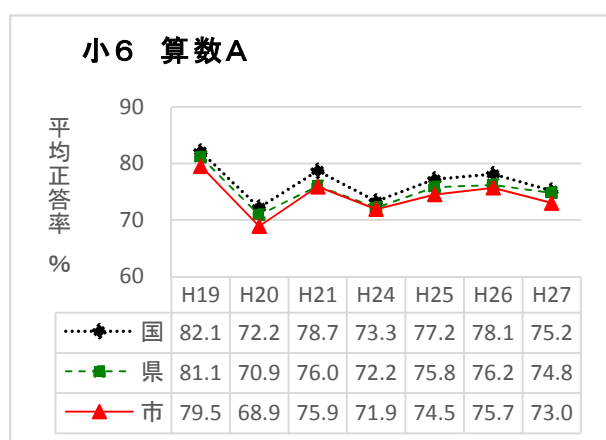


図3 平均正答率 国・県との経年比較（小6 算数A）

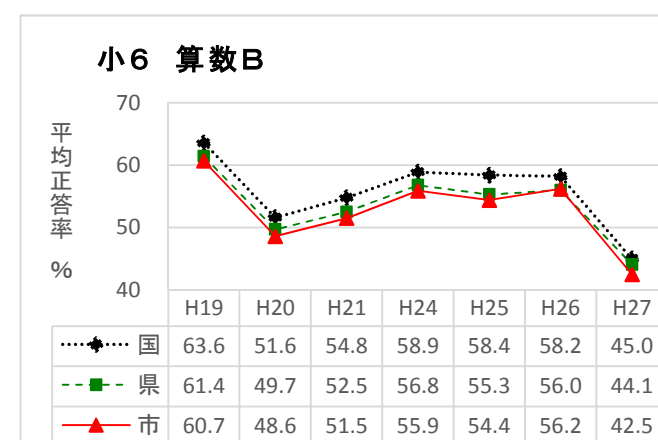


図4 平均正答率 国・県との経年比較（小6 算数B）

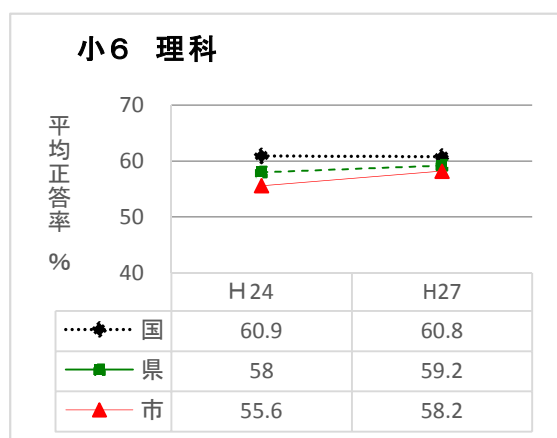


図5 平均正答率 国・県との経年比較（小6 理科）

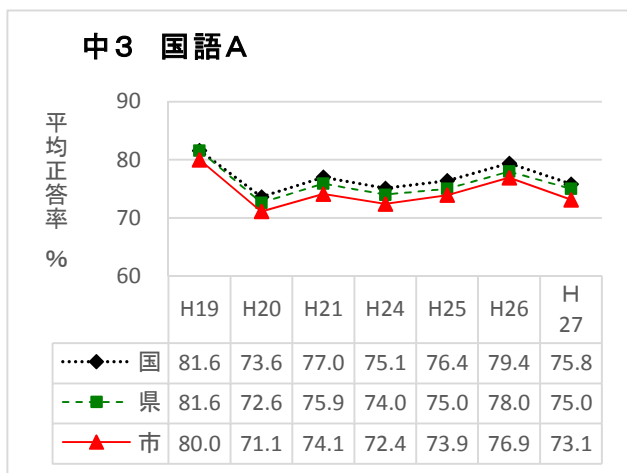


図6 平均正答率 国・県との経年比較 (中3 国語A)

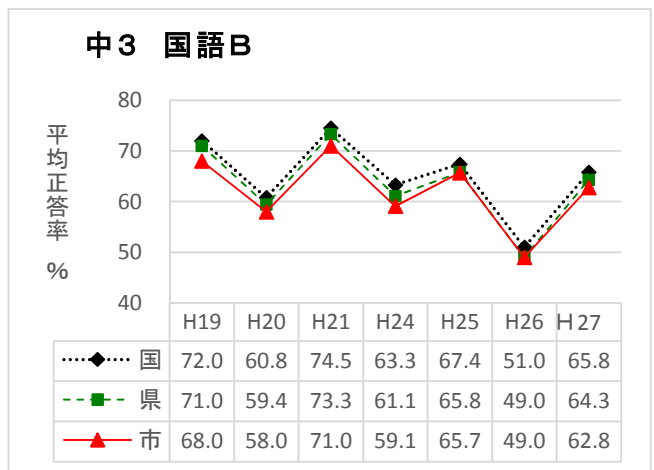


図7 平均正答率 国・県との経年比較 (中3 国語B)

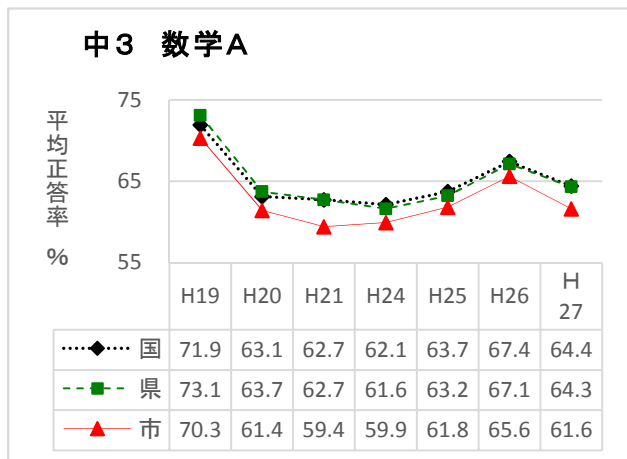


図8 平均正答率 国・県との経年比較 (中3 数学A)

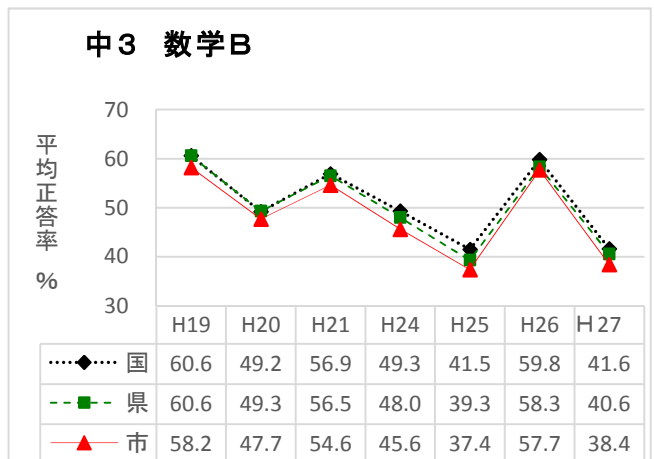


図9 平均正答率 国・県との経年比較 (中3 数学B)

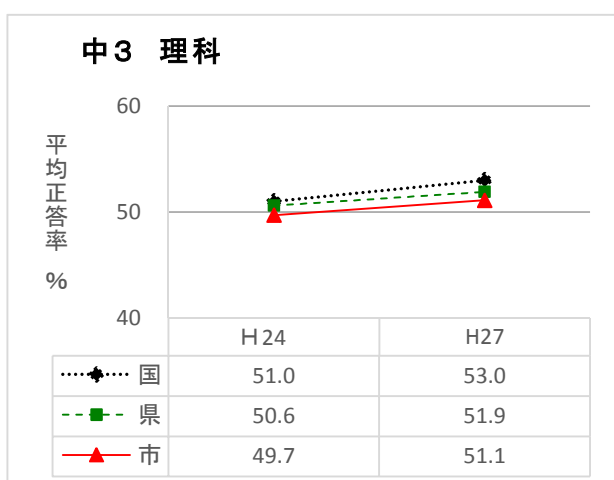


図10 平均正答率 国・県との経年比較 (中3 理科)

表3 平均正答率の全国との差の変化 (%)

		平成 19 年度			平成 20 年度			平成 21 年度			平成 24 年度		
		鈴鹿市	全国 (公立)	差	鈴鹿市	全国 (公立)	差	鈴鹿市	全国 (公立)	差	鈴鹿市	全国 (公立)	差
小国	A	79.4	81.7	-2.3	60.9	65.4	-4.5	67.7	69.9	-2.2	78.0	81.6	-3.6
	B	59.0	62.0	-3.0	46.1	50.5	-4.4	46.1	50.5	-4.4	49.0	55.6	-6.6
小算	A	79.5	82.1	-2.6	68.9	72.2	-3.3	75.9	78.7	-2.8	71.9	73.3	-1.4
	B	60.7	63.6	-2.9	48.6	51.6	-3.0	51.5	54.8	-3.3	55.9	58.9	-3.0
小理											55.6	60.9	-5.3
中国	A	80.0	81.6	-1.6	71.1	73.6	-2.5	74.1	77.0	-2.9	72.4	75.1	-2.7
	B	68.0	72.0	-4.0	58.0	60.8	-2.8	71.0	74.5	-3.5	59.1	63.3	-4.2
中数	A	70.3	71.9	-1.6	61.4	63.1	-1.7	59.4	62.7	-3.3	59.9	62.1	-2.2
	B	58.2	60.6	-2.4	47.7	49.2	-1.5	54.6	56.9	-2.3	45.6	49.3	-3.7
中理											49.7	51.0	-1.3

		平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
		鈴鹿市	全国 (公立)	差	鈴鹿市	全国 (公立)	差	鈴鹿市	全国 (公立)	差
小国	A	58.5	62.7	-4.2	69.6	72.9	-3.3	67.1	70.0	-2.9
	B	46.3	49.4	-3.1	53.8	55.5	-1.7	65.0	65.4	-0.4
小算	A	74.5	77.2	-2.7	75.7	78.1	-2.4	73.0	75.2	-2.2
	B	54.4	58.4	-4.0	56.2	58.2	-2.0	42.5	45.0	-2.5
小理								58.2	60.8	-2.6
中国	A	73.9	76.4	-2.5	76.9	79.4	-2.5	73.1	75.8	-2.7
	B	65.7	67.4	-1.7	49.0	51.0	-2.0	62.8	65.8	-3.0
中数	A	61.8	63.7	-1.9	65.6	67.4	-1.8	61.6	64.4	-2.8
	B	37.4	41.5	-4.1	57.7	59.8	-2.1	38.4	41.6	-3.2
中理								51.1	53.0	-1.9

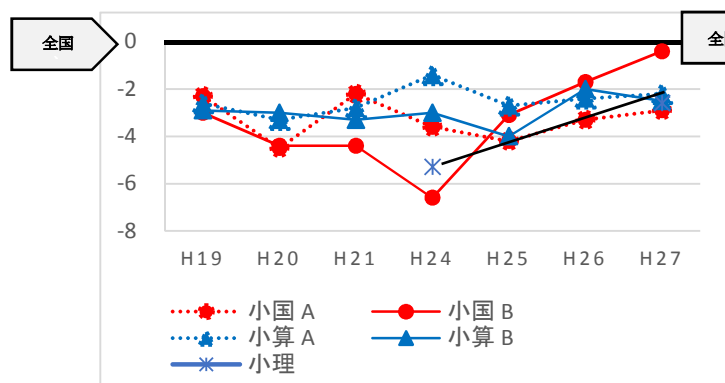


図 11 平均正答率の全国との差の変化（小学校）

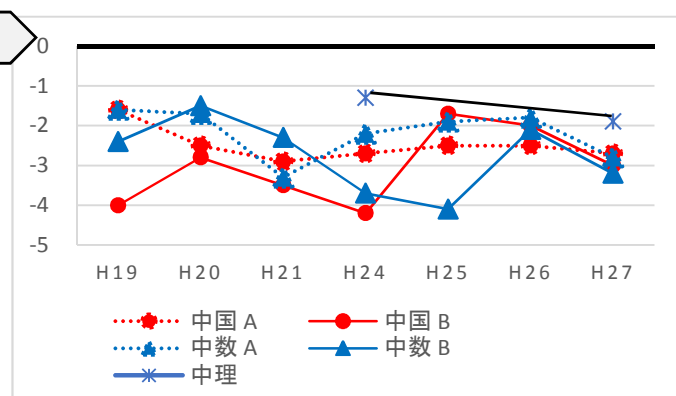


図 12 平均正答率の全国との差の変化（中学校）

### (3) 鈴鹿市と全国（公立）の平均無解答率

- 国の平均無解答率と比較すると、小中学校ともに、H25 から改善傾向にあったが、昨年度（H26）と比べて、差が広がった。（表 4）（図 13）
- 小学校理科のみ、前回（H24）と比べて、差が縮まった。（表 4）（図 13）

表 4 記述式問題における平均無解答率 全国との経年比較 (%)

	平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差	鈴鹿市	全国	差
小国B 記述式問題	13.7	10.4	-3.3	21.8	16.4	-5.4	18.7	13.6	-5.1	19.6	12.8	-6.8	21.0	15.1	-5.9	13.6	12.8	-0.8	10.1	8.7	-1.4
小算B 記述式問題	13.6	10.1	-3.5	11.4	8.6	-2.8	12.6	9.3	-3.3	10.3	7.4	-2.9	14.7	10.9	-3.8	8.1	7.1	-1.0	18.6	16.5	-2.1
小理 記述式問題										7.1	4.1	-3.0							3.0	3.2	0.2
中国B 記述式問題	12.7	10.7	-2.0	24.5	20.2	-4.3	8.3	6.4	-1.9	14.5	11.9	-2.6	7.1	6.5	-0.6	9.1	9.3	0.2	7.7	5.9	-1.8
中数B 記述式問題	25.6	23.0	-2.6	29.6	27.0	-2.6	27.1	22.8	-4.3	21.3	19.0	-2.3	33.0	29.5	-3.5	16.5	16.1	-0.4	26.9	23.2	-3.7
中理 記述式問題										15.3	13.5	-1.8							25.1	21.9	-3.2

※平成 24 年度の鈴鹿市の無解答率については、抽出校の小学校 9 校、中学校 7 校の平均  
※無解答率については、数値が低いほどよい

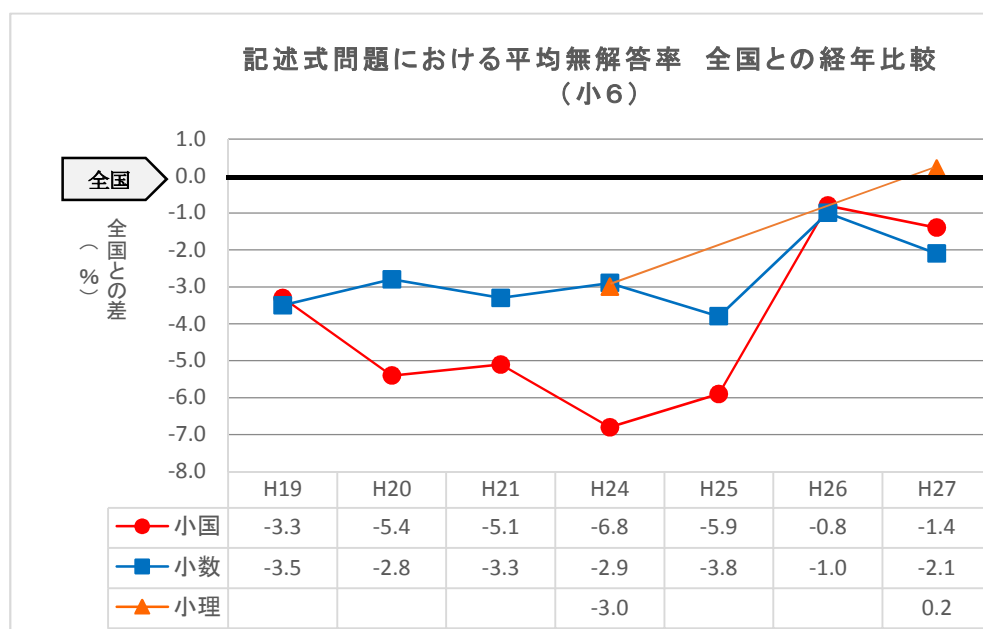


図 13 記述式問題平均無解答率の全国との経年比較（小学校）

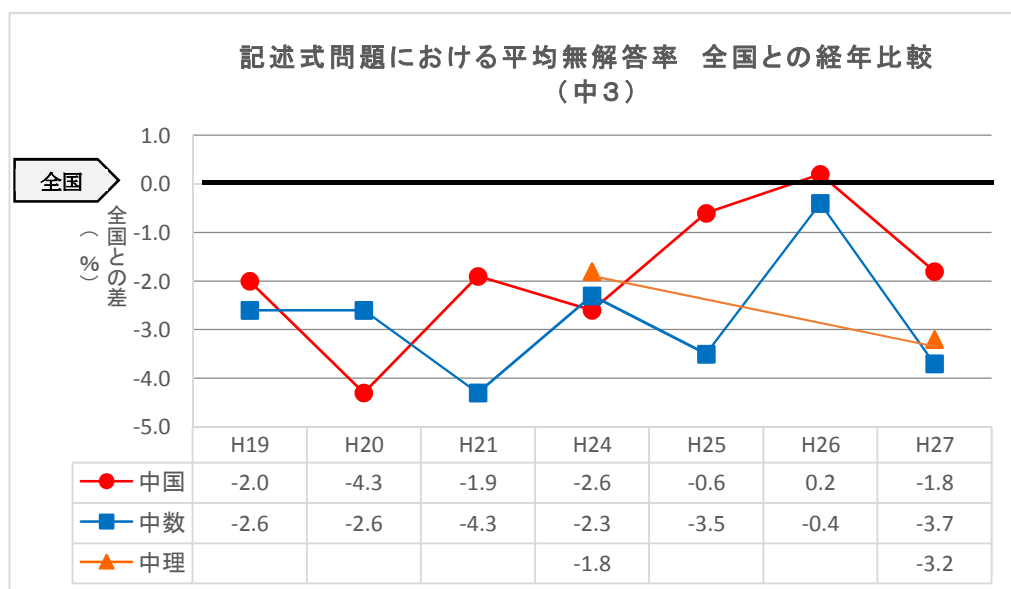


図 14 記述式問題平均無解答率の全国との経年比較（中学校）

（４）平均正答率が全国平均・県平均を上回る学校数

● 増減を繰り返しており、大きな学校数の変化はみられない。しかし、小学校国語 B 問題は H 24 からの伸びは大きい。（表 5，表 6）

表 5 平均正答率が全国平均・県平均を上回る学校数の経年変化（小学校）（校）

小学校	国語A							国語B							算数A							算数B						
	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27
全国平均を上回る学校数	7	7	11	4	7	5	7	12	6	6	1	8	9	14	8	9	10	14	9	8	8	7	8	11	7	8	9	8
県平均を上回る学校数	14	10	14	11	11	16	10	14	11	15	5	13	18	14	10	12	18	16	12	13	8	16	14	14	14	15	13	12

表 6 平均正答率が全国平均・県平均を上回る学校数の経年変化（中学校）（校）

中学校	国語A							国語B							数学A							数学B						
	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27	H19	H20	H21	H24	H25	H26	H27
全国平均を上回る学校数	4	2	2	3	3	1	2	1	3	3	2	3	3	2	3	6	2	3	3	3	3	2	6	4	1	2	3	3
県平均を上回る学校数	4	3	4	3	4	4	2	3	4	4	2	7	5	4	2	5	2	4	3	4	3	2	6	4	3	3	5	5

## (5) 正答数分布

### <小学校 6 年>

- 全ての教科において正答数の多い児童が少ない。特に、国語A問題と算数A問題が顕著である。  
(図 15～19)

### <中学校 3 年>

- 数学B問題の分布の山が左寄りになり、正答数の少ない生徒が多い。(図 20～図 24)

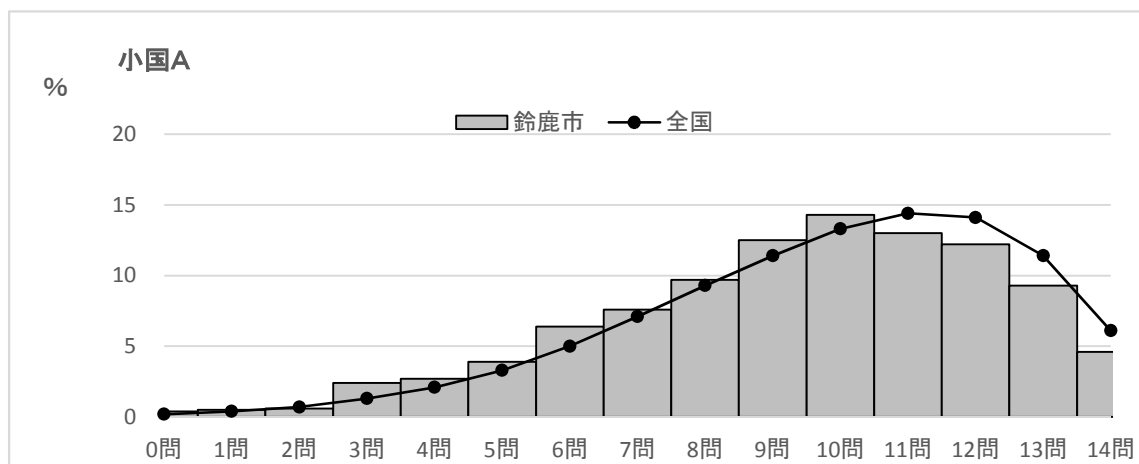


図 15 平成 27 年度 小学校国語 A 正答数分布

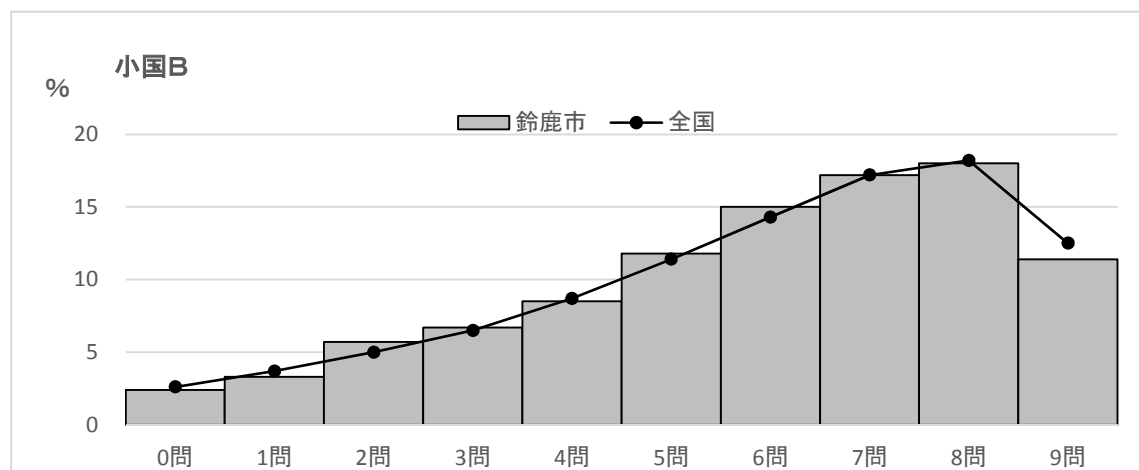


図 16 平成 27 年度 小学校国語 B 正答数分布

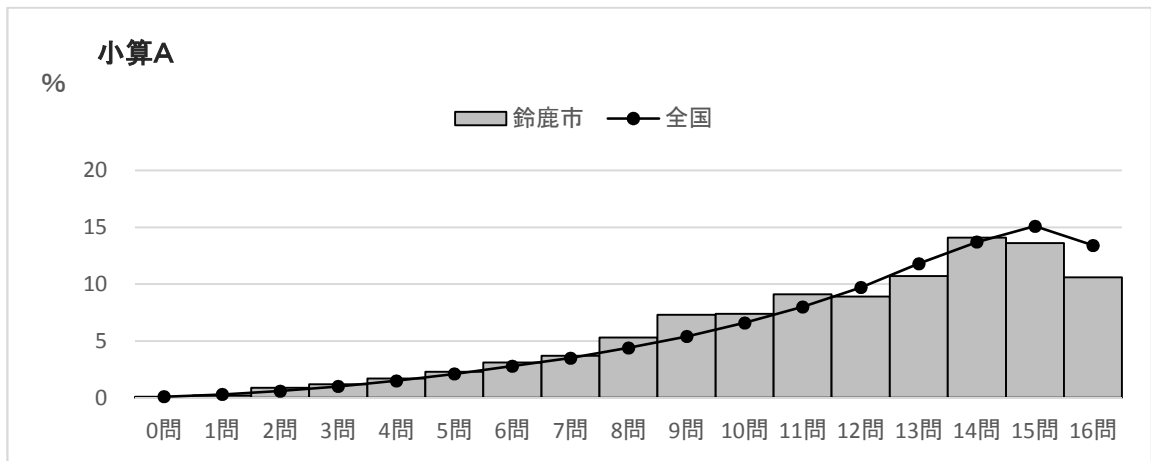


図 17 平成 27 年度 小学校算数 A 正答数分布

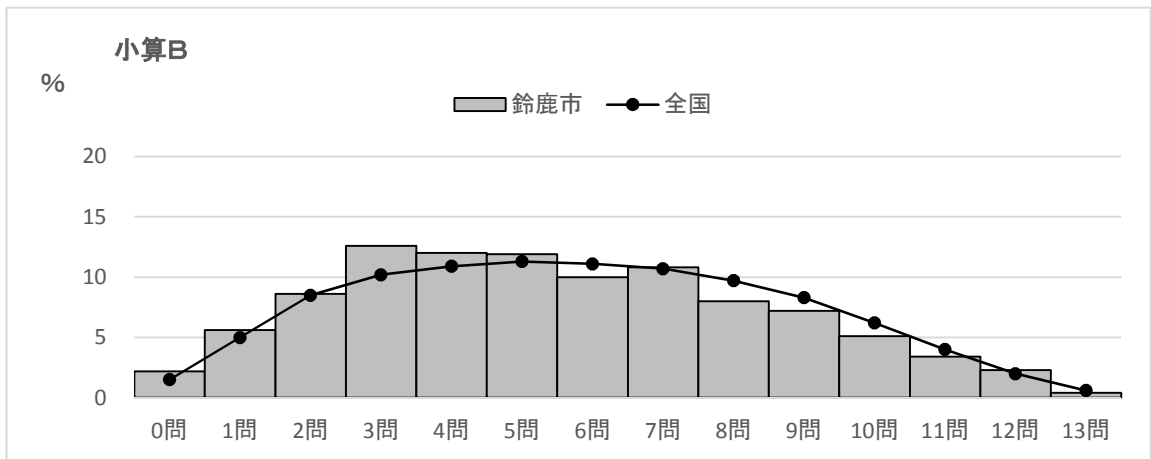


図 18 平成 27 年度 小学校算数 B 正答数分布

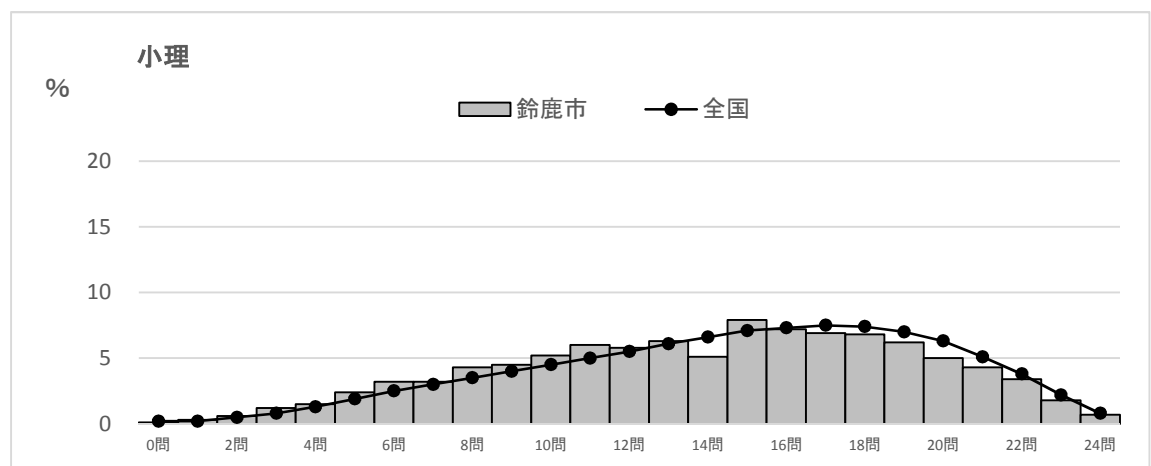


図 19 平成 27 年度 小学校理科正答数分布

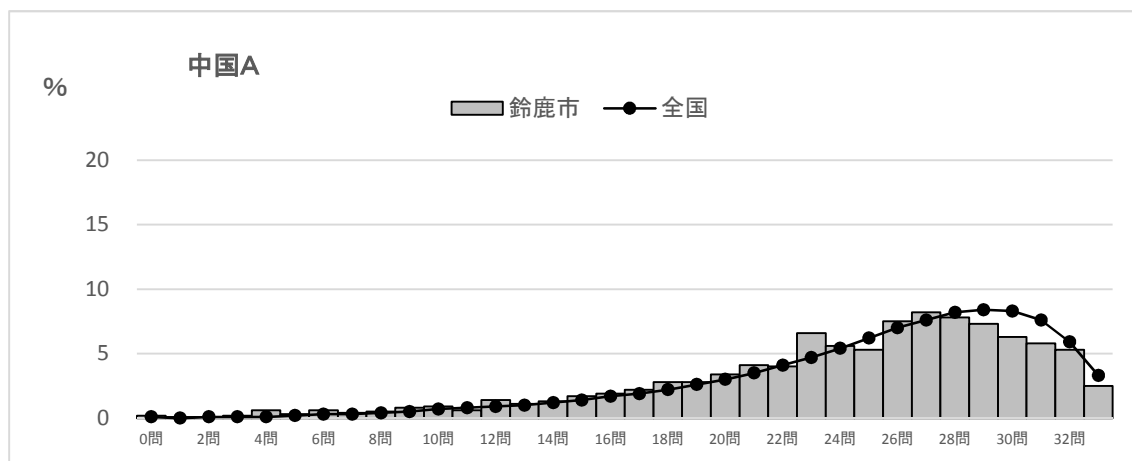


図 20 平成 27 年度 中学校国語A正答数分布

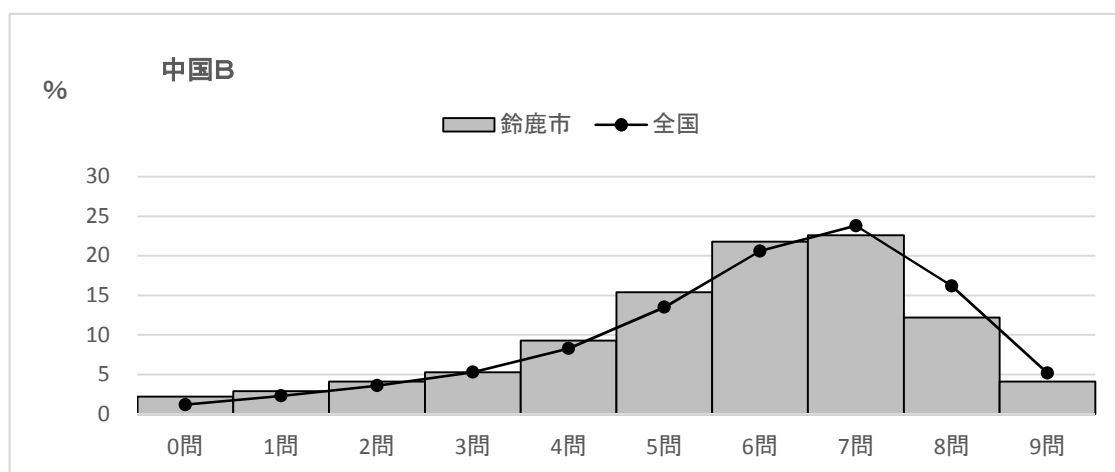


図 21 平成 27 年度 中学校国語B正答数分布

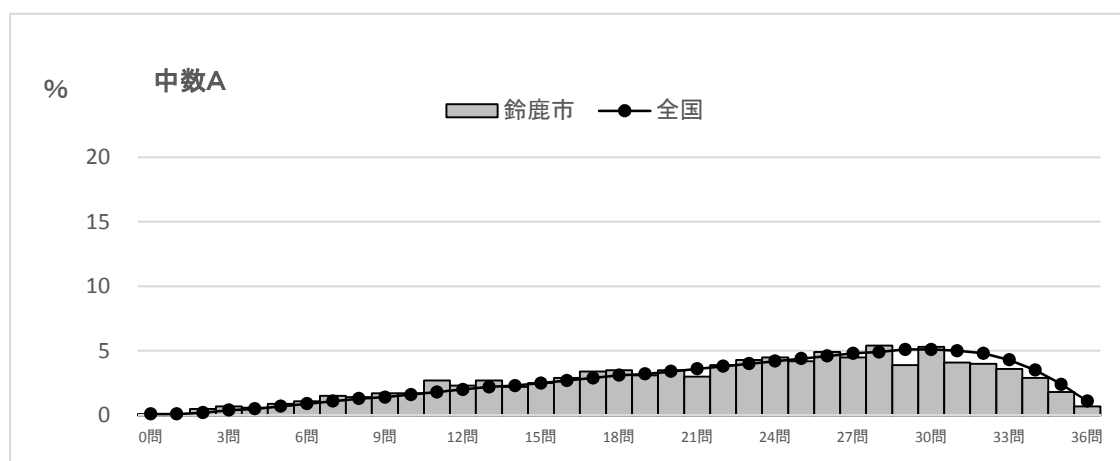


図 22 平成 27 年度 中学校数学 A 正答数分布

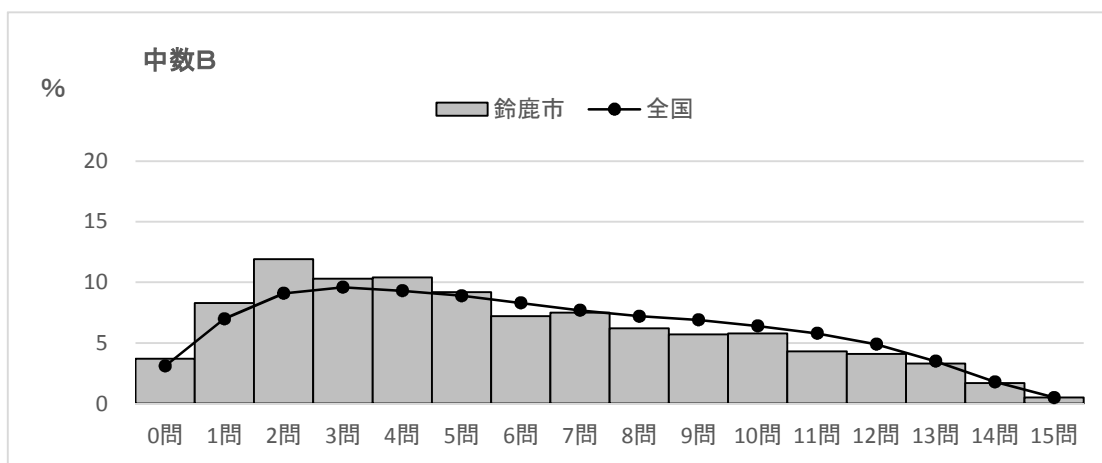


図 23 平成 27 年度 中学校数学B 正答数分布

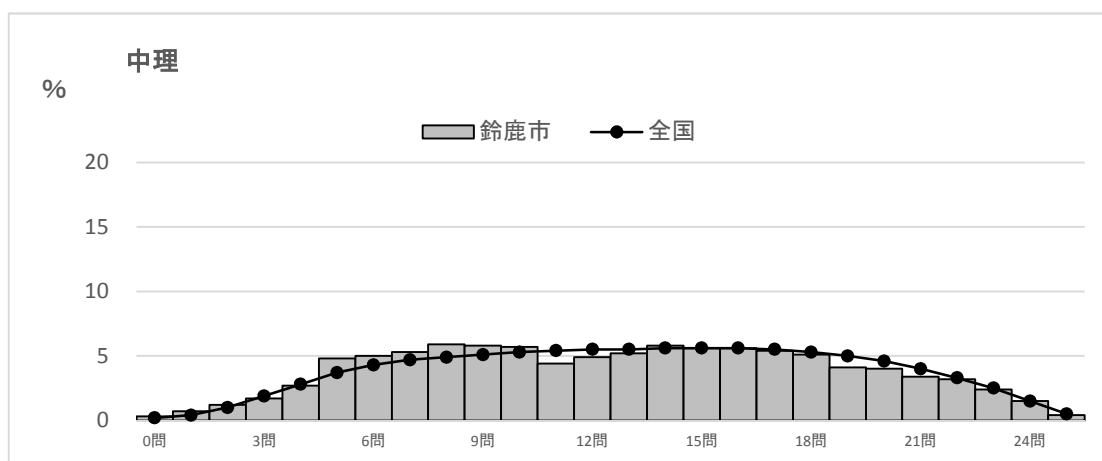


図 24 平成 27 年度 中学校理科正答数分布

### 3 各教科の調査結果

## 小学校 国語

#### < A問題 >

- 「書く能力」は平均正答率が80%を上回り、国との差も0.7ポイントと昨年度より縮まった。(表7)(H26は2.7ポイント下回っていた。)
- 平均正答率を観点別にみると、「読む能力」の国の平均正答率との差が一番大きく、4.9ポイント下回っている。(表7)(図25)
- 「言語についての知識・理解・技能」は、国の平均正答率より2.8ポイント下回っている。(表7)(図25)(H26は3.7ポイント下回っていた。)

#### < B問題 >

- 全て国との差は1ポイント以内におさまっている。課題とされてきた記述式問題については国との差が0.3ポイントと縮まった。(H26は1.2ポイント下回っていた。)(表7)(図26)

表7 小学校国語 分類・区分別集計結果

分類	区分	A(全14問)			B(全9問)		
		対象 設問数	平均正答率(%)		対象 設問数	平均正答率(%)	
			H27 鈴鹿市	H27 全国(公立)		H27 鈴鹿市	H27 全国(公立)
評価の観点	関心・意欲・態度	0			4	55.1	55.4
	話す・聞く能力	1	52.2	53.0	0		
	書く能力	1	85.3	86.0	6	60.5	61.1
	読む能力	4	50.3	55.2	6	68.0	68.1
	言語についての知識・理解・技能	9	74.4	77.2	0		
問題形式	選択式	7	63.9	66.4	3	68.3	68.6
	短答式	7	70.2	73.7	2	79.9	80.8
	記述式	0			4	55.1	55.4

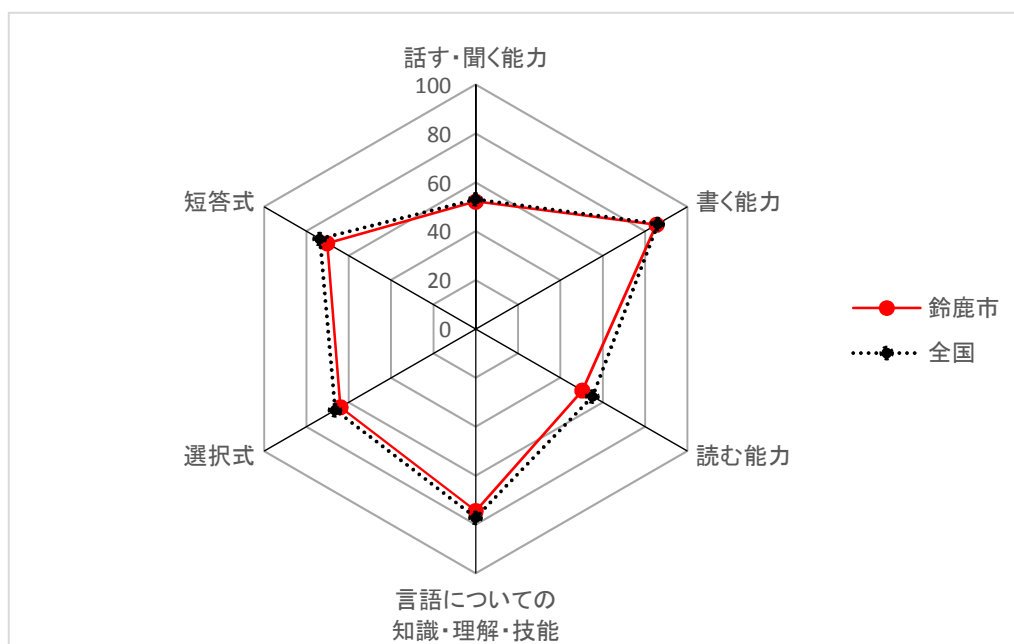


図 25 小学校国語 A 分類・区分別平均正答率からみる強みと弱み

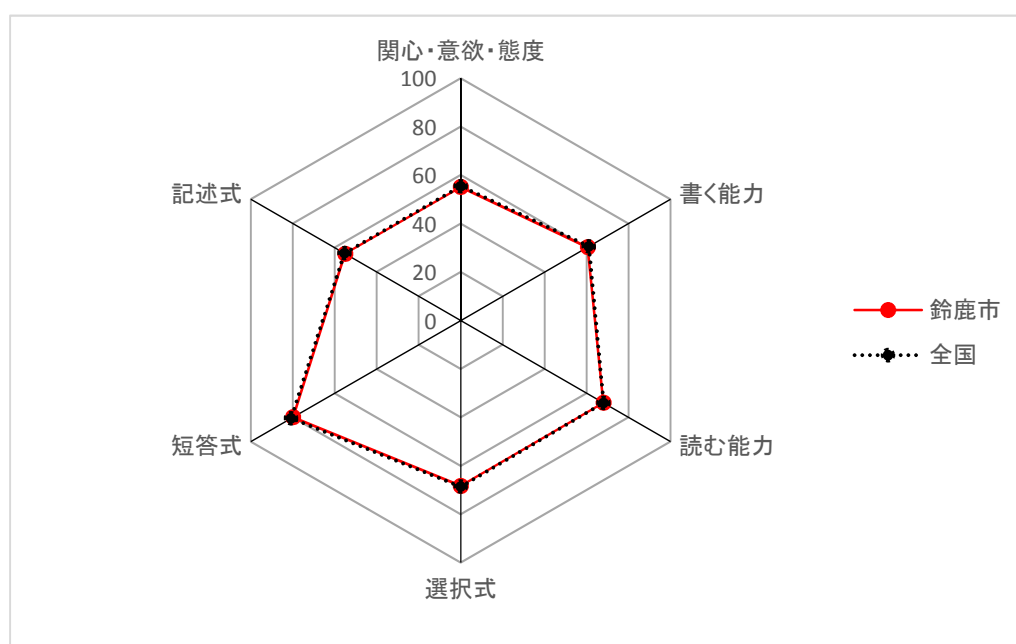


図 26 小学校国語 B 分類・区分別平均正答率からみる強みと弱み

# 小学校国語に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

## 質問紙調査結果からみえる課題

### <児童質問紙調査>

- 「国語の勉強は好き」と回答する児童の割合（表8）
- 目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりすること（表9）
- 意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫すること（表9）

※児童質問紙84（表10）は、実態を把握するにとどめ、課題としては取り上げない。

### <学校質問紙調査>

※学校質問紙59, 60, 47（表11）は、実態を把握するにとどめ、課題としては取り上げない。

## 児童質問紙

表8 児童の「国語の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
48	国語の勉強は好きですか	57.6	58.3	59.6	61.1	△
49	国語の勉強は大切だと思いますか	89.4	92.0	92.2	92.0	○
50	国語の授業の内容はよく分かりますか	78.8	80.7	80.9	82.0	△
51	読書は好きですか	71.7	72.0	70.8	72.8	△
52	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	85.5	87.4	88.8	88.6	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表9 児童の「国語の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
53	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	53.0	56.9	60.0	65.2	▲
54	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	57.4	58.8	58.3	61.2	△
55	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	67.6	70.5	71.6	72.7	△
56	国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	74.7	77.0	74.6	77.2	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 10 児童の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
57	解答を文章で書く問題がありましたが、それらの問題について最後まで解答を書こうと努力しましたか	66.8	78.0	77.3	77.7	△
83	解答時間は十分でしたか（国語 A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	45.9	84.5	80.7	83.3	△
84	解答時間は十分でしたか（国語 B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	51.7	51.8	63.9	67.6	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

## 学校質問紙

表 11 「国語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
59	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	43.3	60.0	66.6	73.8	▲
60	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	13.3	43.3	33.3	44.6	▲
61	前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	73.3	83.3	93.3	89.3	○
62	前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	86.7	93.3	93.3	91.9	○
63	前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	70.0	66.6	86.6	84.6	○
64	前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	100	96.7	100	97.9	○
47	前年度に、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行いましたか	—	10.0	16.6	37.5	▲

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

# 小学校 算数

## < A問題 >

- 評価の観点，問題形式別にみた場合，どの項目も全国平均との差は 3.0 ポイント以内であり，顕著なひらきはない。（表 12）（図 27）
- 選択式問題は全国平均を下回り，平均正答率も 70%に満たない。（表 12）（図 27）  
（H26 も鈴鹿市 68.0%：全国 70.7%）

## < B問題 >

- 観点別の平均正答率をみた場合，「数学的な考え方」に関する平均正答率が 32.8%，「数量や図形についての技能」に関する問題の平均正答率が 55.7%と低い。（表 12）（図 28）
- 「数量や図形についての技能」においては，全国平均よりも 3.0 ポイント下回り，差が大きい。（表 12）（図 28）
- 記述式問題の平均正答率が 29.3%と低く，全国平均よりも 3.2 ポイント下回り，差が大きい。（表 12）（図 28）（H26 は 3.6 ポイント下回っていた）

表 12 小学校算数 分類・区分別集計結果

分類	区分	A(全16問)			B(全13問)		
		対象 設問数	平均正答率(%)		対象 設問数	平均正答率(%)	
			H27 鈴鹿市	H27 全国(公立)		H27 鈴鹿市	H27 全国(公立)
評価 の 観 点	関心・意欲・態度	0			0		
	数学的な考え方	0			9	32.8	35.3
	数量や図形についての技能	7	74.9	77.2	2	55.7	58.7
	数量や図形についての知識・理解	9	71.5	73.6	2	73.2	74.9
問題 形式	選択式	5	68.8	70.5	3	68.3	70.6
	短答式	11	74.9	77.3	5	40.3	42.2
	記述式	0			5	29.3	32.5

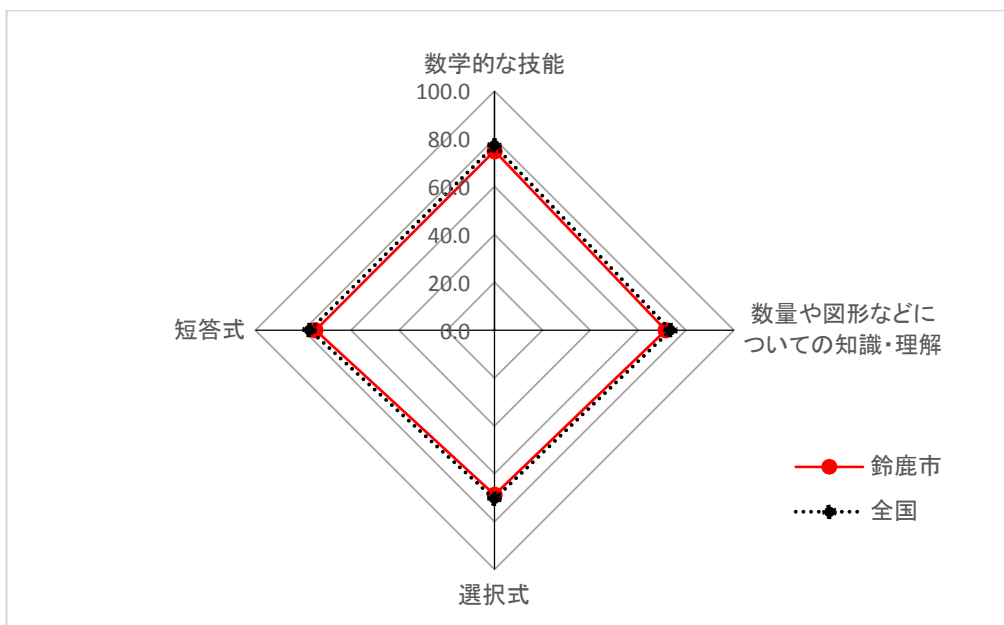


図 27 小学校算数 A 分類・区分別平均正答率からみる強みと弱み

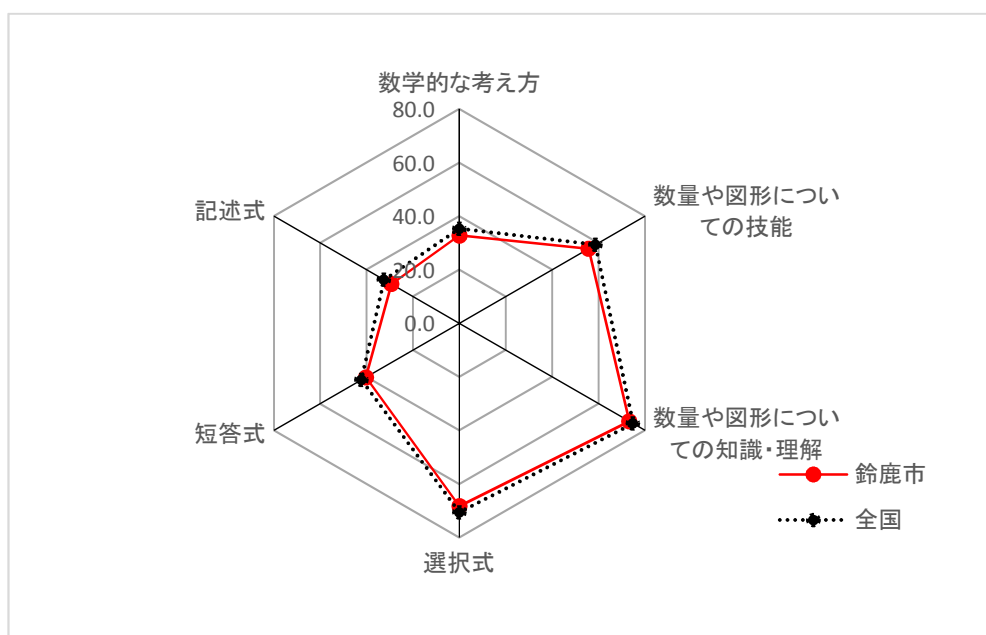


図 28 小学校算数 B 分類・区分別平均正答率からみる強みと弱み

# 小学校算数に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

## 質問紙調査結果からみえる課題

### <児童質問紙調査>

- 「算数の勉強は好き」と回答する児童の割合（表13）
- 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えること（表14）

※児童質問紙86（表15）は、実態を把握するにとどめ、課題としては取り上げない。

### <学校質問紙調査>

※学校質問紙65、66、68、69、55、56、57、48（表16）は、実態を把握するにとどめ、課題としては取り上げない。

## 児童質問紙

表13 児童の「算数の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
58	算数の勉強は好きですか	65.2	67.0	64.8	66.6	△
59	算数の勉強は大切だと思いますか	90.3	93.2	92.9	93.1	△
60	算数の授業の内容はよく分かりますか	78.2	80.7	81.5	81.0	○
61	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	76.9	78.6	78.2	77.5	○
64	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	87.3	88.8	90.2	90.3	△

※全国平均との差 ▲<-5△<0○<+5◎

表14 児童の「算数の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
62	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	76.5	78.2	79.7	79.6	○
63	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	62.5	66.6	65.5	67.7	△
65	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	77.5	81.3	79.0	79.1	△
66	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	78.9	81.7	79.5	80.6	△

67	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	81.5	83.0	82.3	83.8	△
----	------------------------------------	------	------	------	------	---

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 15 児童の「調査問題（算数）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
68	言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、それらの問題について、最後まで解答を書こうと努力しましたか	70.5	80.5	73.5	73.3	○
85	解答時間は十分でしたか（算数 A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	70.9	89.1	82.1	84.6	△
86	解答時間は十分でしたか（算数 B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	62.3	74.5	59.3	63.7	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

## 学校質問紙

表 16 「算数科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
65	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	80.0	83.3	86.7	91.8	▲
66	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	36.6	36.7	60.0	61.6	△
67	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	33.4	66.7	80.0	69.3	◎
68	前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	90.0	96.7	90.0	97.4	▲
69	前年度までに、教科担任制を実施していましたか	0	0	0	7.2	▲
55	前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか （※年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上）	3.3	6.7	23.4	44.2	▲
56	前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか （※年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上）	3.3	6.6	16.6	35.0	▲
57	前年度に、チームティーチングによる指導を行いましたか（※年間の授業のうち、おおよそ 1/4 以上）	33.3	36.6	46.6	45.5	○
48	前年度に、算数の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行いましたか	—	10.0	30.0	46.0	▲

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

# 小学校 理科

- 観点別の平均正答率をみた場合、「観察・実験の技能」に関する問題の平均正答率が 51.9%、「科学的な思考・表現」に関する問題の平均正答率が 58.3%と低い。「観察・実験の技能」においては、全国平均よりも 3.6 ポイント下回り、差が大きい。（表 17）（図 29）

表 17 小学校理科 分類・区分別集計結果

分類	区分	全24問		
		対象 設問数	平均正答率(%)	
			H27 鈴鹿市	H27 全国(公立)
枠組み	主として知識に関する問題	9	58.0	61.3
	主として活用に関する問題	15	58.3	60.5
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度	0		
	科学的な思考・表現	15	58.3	60.5
	観察・実験の技能	5	51.9	55.5
	自然事象についての知識・理解	4	65.6	68.6
問題形式	選択式	18	60.9	62.9
	短答式	3	56.9	63.6
	記述式	3	43.0	45.3

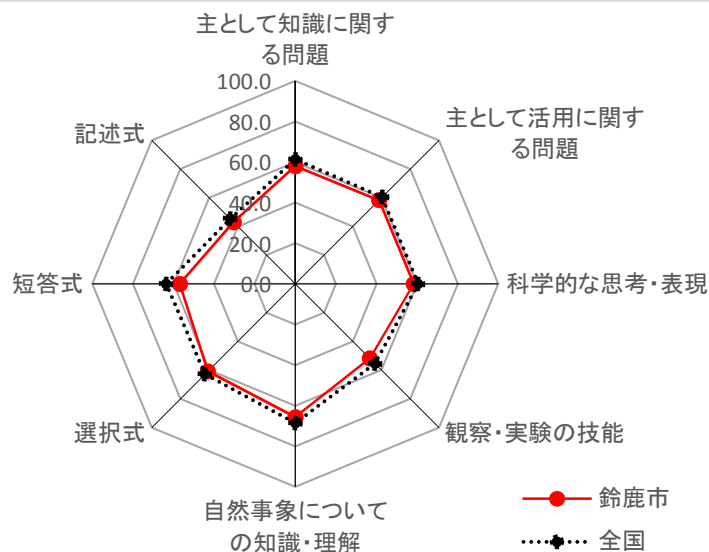


図 29 小学校理科  
分類・区分別平均正答率  
からみる強みと弱み

# 小学校理科に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

## 質問紙調査結果からみえる課題

### <児童質問紙調査>

- 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えること（表19）
  - 理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりすること（表19）
  - 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えること（表19）
- ※児童質問紙75（表19）は、実態を把握するにとどめ、課題としては取り上げない。

### <学校質問紙調査>

※学校質問紙70、71、77、58、49（表21）は、実態を把握するにとどめ、課題としては取り上げない。

## 児童質問紙

表18 児童の「理科の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
69	理科の勉強は好きですか	—	—	82.1	83.5	△
70	理科の勉強は大切だと思いますか	—	—	85.6	86.9	△
71	理科の授業の内容はよく分かりますか	—	—	87.0	87.9	△
72	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	—	—	83.6	86.9	△
74	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	—	—	73.0	74.5	△
78	観察や実験を行うことは好きですか	—	—	89.4	90.1	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表19 児童の「理科の学習に対する意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
73	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	—	—	68.1	69.3	△
75	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いませんか	—	—	28.5	28.8	△
76	理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか	—	—	55.3	54.9	○
77	理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか（※月1回以上）	—	—	87.8	90.0	△

79	理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	—	—	73.7	75.3	△
80	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	—	—	79.3	80.4	△
81	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	—	—	65.8	67.1	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 20 児童の「調査問題（理科）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
82	解答を文章などで書く問題がありましたが、それらの問題について、最後まで解答を書こうと努力しましたか	—	—	76.6	76.1	○
87	解答時間は十分でしたか (※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答)	—	—	76.1	79.6	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

## 学校質問紙

表 21 「理科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
70	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	—	—	36.7	55.8	▲
71	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	—	—	36.7	47.2	▲
72	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	—	—	70.0	80.0	▲
73	前年度までに、児童が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか	—	—	80.0	84.0	△
74	前年度までに、自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行いましたか	—	—	83.3	81.6	○
75	前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか	—	—	96.7	93.8	○
76	前年度までに、観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述の方法に関する指導を行いましたか	—	—	90.0	92.1	△
77	理科の授業やその準備において、前年度に、観察実験補助員が配置されていたか	—	—	20.0	13.2	◎
78	前年度に理科室で児童が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか (※週1回以上)	—	—	83.3	96.5	▲
58	前年度に、ティームティーチングによる指導を行いましたか	—	—	10.0	15.4	▲

49	前年度に，理科の授業において，コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む），電子黒板，実物投影機，プロジェクター，インターネットなど）を活用した授業を行いましたか	—	—	43.3	61.5	▲
----	--	---	---	------	------	---

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

# 中学校 国語

## < A問題 >

- 観点別の平均正答率をみた場合、「言語についての知識・理解・技能」に関する問題の平均正答率が 69.7%と低く、全国平均を 3.2 ポイント下回り、差が大きい。(表 22) (図 30)

## < B問題 >

- 観点別の平均正答率をみた場合、「関心・意欲・態度」及び「書く能力」に関する問題の平均正答率がともに、32.5%と低く、全国平均を 4.2 ポイント下回っている。  
(表 22) (図 31)
- 記述式問題の平均正答率が 32.5%と低く、全国平均を 4.2 ポイント下回り、差が大きい。  
(昨年度は全国平均を 3.0 ポイント下回る。)(表 22) (図 31)

表 22 中学校国語 分類・区分別集計結果

分類	区分	A(全33問)			B(全9問)		
		対象 設問数	平均正答率(%)		対象 設問数	平均正答率(%)	
			H27 鈴鹿市	H27 全国(公立)		H27 鈴鹿市	H27 全国(公立)
評価の観点	関心・意欲・態度	0			3	32.5	36.7
	話す・聞く能力	4	77.1	79.7	3	68.3	72.2
	書く能力	5	70.4	73.6	3	32.5	36.7
	読む能力	5	85.4	86.1	6	60.0	62.6
	言語についての知識・理解・技能	19	69.7	72.9	0		
問題形式	選択式	23	73.1	75.5	6	77.9	80.3
	短答式	10	73.1	76.7	0		
	記述式	0			3	32.5	36.7

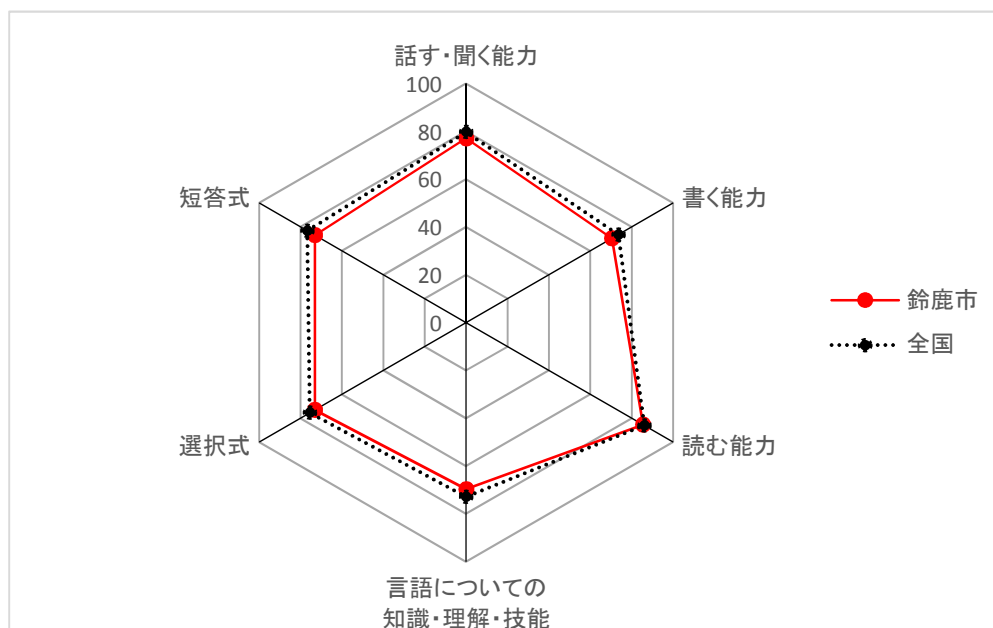


図 30 中学校国語 A 分類・区分別平均正答率からみる強みと弱み

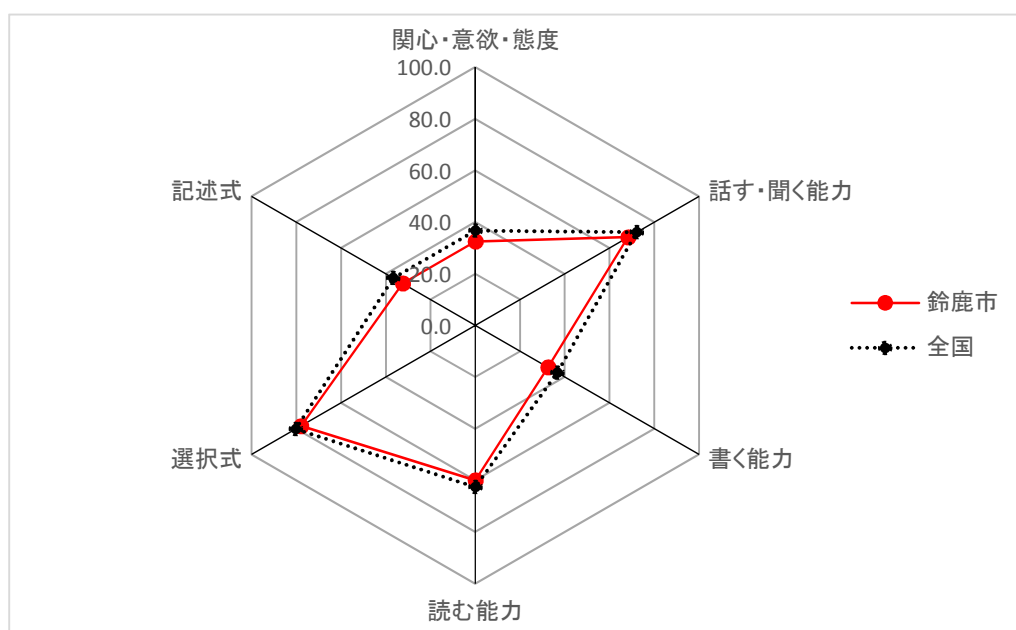


図 31 中学校国語 B 分類・区分別平均正答率からみる強みと弱み

# 中学校国語に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

## 質問紙調査結果からみえる課題

### <生徒質問紙調査>

- 「国語の勉強は好き」と回答する生徒の割合（表23）
- 「読書は好き」と回答する生徒の割合（表23）
- 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりすること（表24）
- 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫すること（表24）
- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書くこと（表24）
- 国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読むこと（表24）

### <学校質問紙調査>

※学校質問紙59, 60, 61, 64, 47（表26）は、実態を把握するにとどめ、課題としては取り上げない。

## 生徒質問紙

表23 生徒の「国語の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
48	国語の勉強は好きですか	62.2	59.6	58.2	60.5	△
49	国語の勉強は大切だと思いますか	87.0	89.2	86.9	89.9	△
50	国語の授業の内容はよく分かりますか	77.3	74.4	73.7	74.3	△
51	読書は好きですか	68.8	69.8	63.8	67.9	△
52	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	82.9	81.5	83.0	84.2	△

※全国平均との差 ▲<-5 ≤ △<0 ≤ ○<+5 ≤ ◎

表24 生徒の「国語の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
53	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	54.2	57.3	56.8	59.2	△
54	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	47.1	48.0	49.2	54.0	△

55	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	62.2	61.4	61.7	65.7	△
56	国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	65.0	67.8	68.0	70.6	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 25 生徒の「調査問題（国語）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
57	解答を文章で書く問題がありましたが、それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか	74.4	72.7	74.1	76.4	△
83	解答時間は十分でしたか（国語 A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	89.9	93.2	92.1	94.4	△
84	解答時間は十分でしたか（国語 B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	70.8	79.5	85.9	86.0	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

## 学校質問紙

表 26 「国語科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
59	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	60.0	50.0	70.0	78.2	▲
60	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	40.0	50.0	60.0	60.8	△
61	前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	60.0	80.0	60.0	83.2	▲
62	前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	80.0	100	90.0	94.5	△
63	前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	60.0	60.0	100	86.7	◎
64	前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	100	100	90.0	98.2	▲
47	前年度に、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行いましたか	—	0	20.0	16.4	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

# 中学校 数学

## < A問題 >

- 評価の観点，問題形式別にみた場合，昨年度はどの項目も差は2.0ポイント以内であったが，今年度は2.2～3.4ポイントと差が広がっている。問題形式別では，短答式問題が全国平均より3.4ポイント下回り，差が大きい。（表27）（図32）

## < B問題 >

- 評価の観点のうち，「数学的な考え方」及び「数学的な技能」ともに，平均正答率が30%台と低く，全国平均よりも「数学的な考え方」が3.2ポイント，「数学的な技能」が3.8ポイント下回り，差が大きい。（表27）（図33）
- 短答式問題，記述式問題ともに昨年度と比べ全国平均との差が広がった。  
短答式問題では平成26年度の2.0から3.8ポイントへ，記述式問題では平成26年度の2.7から4.0ポイントと差が広がった。（表27）（図33）

表27 中学校数学 分類・区分別集計結果

分類	区分	A(全36問)			B(全15問)		
		対象 設問数	平均正答率(%)		対象 設問数	平均正答率(%)	
			H27 鈴鹿市	H27 全国(公立)		H27 鈴鹿市	H27 全国(公立)
評価 の 観 点	関心・意欲・態度	0			0		
	数学的な考え方	0			13	39.6	42.8
	数学的な技能	17	62.2	65.0	2	30.4	34.2
	数量や図形などについての知識・理解	19	61.2	63.9	0		
問題 形 式	選択式	19	62.4	64.6	4	46.3	47.9
	短答式	17	60.8	64.2	4	43.6	47.4
	記述式	0			7	30.8	34.8

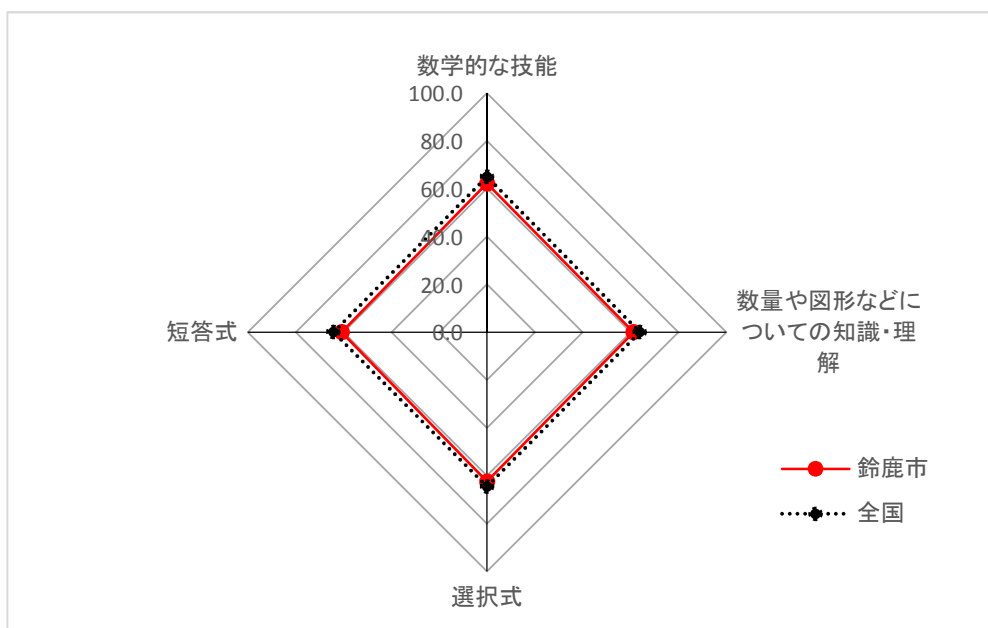


図 32 中学校数学A 分類・区分別平均正答率からみる強みと弱み

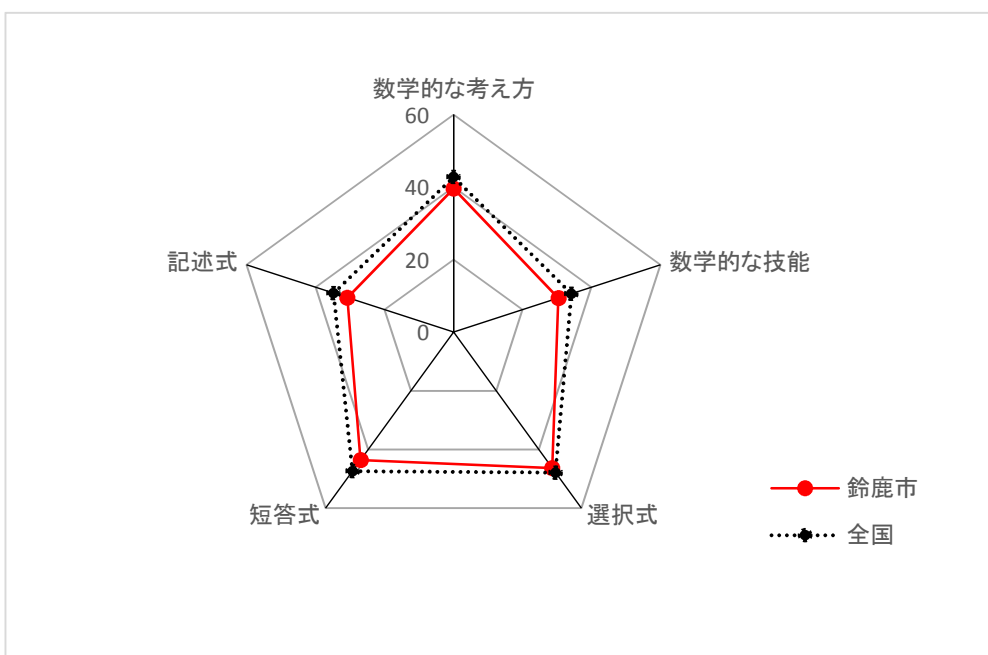


図 33 中学校数学B 分類・区分別平均正答率からみる強みと弱み

# 中学校数学に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が70%未満か、70%以上であっても全国平均より5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

## 質問紙調査結果からみえる課題

### <生徒質問紙調査>

- 「数学の勉強は好き」と回答する生徒の割合（表 28）
- 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えること（表 29）
- 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えること（表 29）
- 言葉や数、式を使って説明する問題で最後まで解答を書こうと努力すること（表 30）

### <学校質問紙調査>

- 実生活における事象との関連を図った授業を行うこと（表 31）

※学校質問紙 65, 68, 56, 57, 48（表 31）は、実態を把握するにとどめ、課題としては取り上げない。

## 生徒質問紙

表 28 生徒の「数学の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
58	数学の勉強は好きですか	57.4	54.6	56.4	56.0	○
59	数学の勉強は大切だと思いますか	80.5	78.6	82.5	82.6	△
60	数学の授業の内容はよく分かりますか	75.1	72.4	73.8	71.6	○
61	数学ができるようになりたいと思いますか	91.0	92.3	91.4	91.5	△
64	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	70.9	69.5	73.9	72.5	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 29 生徒の「数学の学習に対する意欲・態度」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
62	数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	69.9	73.3	70.4	69.8	○
63	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	41.3	43.3	40.0	40.9	△
65	数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	71.2	69.2	68.7	67.5	○

66	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか	71.7	73.2	70.6	70.1	○
67	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	83.5	84.6	83.0	80.6	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 30 生徒の「調査問題（数学）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
68	言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか	42.7	59.8	49.2	51.3	△
85	解答時間は十分でしたか（数学 A） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	82.1	91.0	89.9	90.6	△
86	解答時間は十分でしたか（数学 B） （※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答）	54.4	76.9	76.8	76.6	○

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

## 学校質問紙

表 31 「数学の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
65	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	70.0	70.0	70.0	89.1	▲
66	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	50.0	70.0	70.0	65.4	○
67	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	40.0	60.0	50.0	63.4	▲
68	前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	100	80.0	90.0	96.3	▲
55	前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	0	10.0	10.0	33.6	▲
56	前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	0	10.0	10.0	27.6	▲
57	前年度に、ティームティーチングによる指導を行いましたか	10.0	10.0	30.0	44.7	▲
48	前年度に、数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど）を活用した授業を行いましたか	—	0	10.0	27.8	▲

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

# 中学校 理科

- 評価の観点でみた場合、どれも全国平均との差が2.0ポイント以内である。(表32)(図34)
- 記述式問題の全国平均との差が2.5ポイントであり、ほかの問題形式(選択式, 短答式)と比べて差が大きい。(表32)(図34)

表32 中学校理科 分類・区分別集計結果

分類	区分	全25問		
		対象 設問数	平均正答率(%)	
			H27 鈴鹿市	H27 全国(公立)
評価の観点	関心・意欲・態度	0		
	科学的な思考	18	46.9	48.8
	観察・実験の技能	2	44.8	46.8
	自然事象についての知識・理解	5	68.9	70.6
問題形式	選択式	16	51.4	53.1
	短答式	4	59.9	61.6
	記述式	5	43.3	45.8

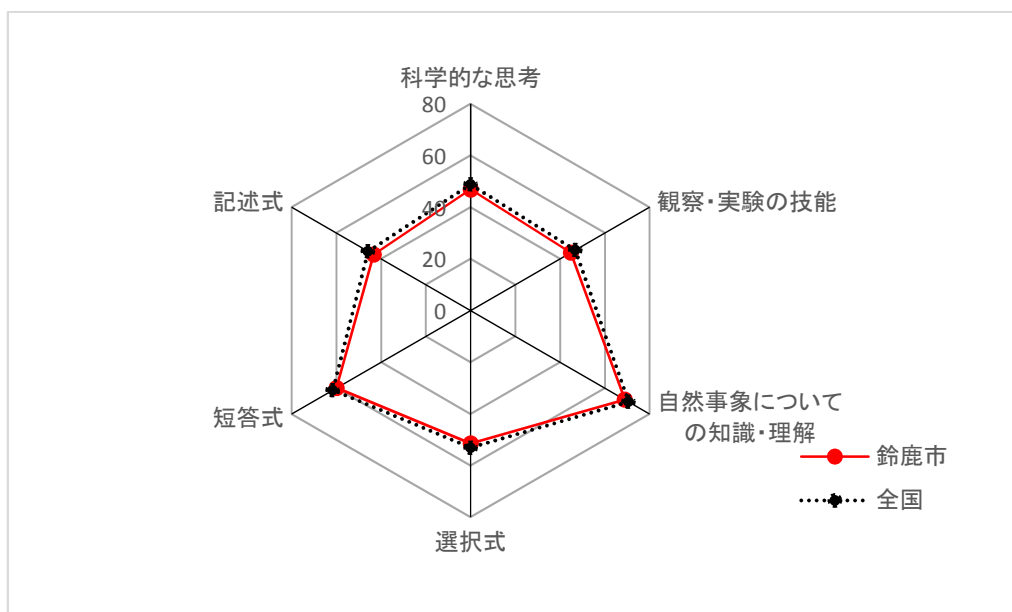


図34 中学校理科 分類・区分別平均正答率からみる強みと弱み

# 中学校理科に関する質問紙調査の結果

※肯定的回答の割合が 70%未満か、70%以上であっても全国平均より 5%以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

## 質問紙調査結果からみえる課題

### <生徒質問紙調査>

- 「理科の勉強は好き」と回答する生徒の割合（表 33）
- 「理科の勉強は大切だと思う」と回答する生徒の割合（表 33）
- 「理科の授業の内容はよく分かる」と回答する生徒の割合（表 33）
- 「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と回答する生徒の割合（表 33）
- 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えること（表 34）
- 理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりすること（表 34）
- 理科の授業で、観察や実験を行う頻度（表 34）
- 理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てること（表 34）
- 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察すること（表 34）
- 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えること（表 34）
- 解答を文章などで書く問題で、最後まで解答を書こうと努力すること（表 35）

※児童質問紙 75(表 34)は、実態を把握するにとどめ、課題としては取り上げない。

### <学校質問紙調査>

- 自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行うこと（表 36）

※学校質問紙 69, 70, 76, 58, 49（表 36）は、実態を把握するにとどめ、課題としては取り上げない。

## 生徒質問紙

表 33 生徒の「理科の学習に対する関心」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
69	理科の勉強は好きですか	—	—	61.8	61.9	△
70	理科の勉強は大切だと思いますか	—	—	69.0	69.3	△
71	理科の授業の内容はよく分かりますか	—	—	68.2	66.8	○

72	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	—	—	72.8	75.5	△
74	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	—	—	55.7	54.3	○
78	観察や実験を行うことは好きですか	—	—	78.8	80.1	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 34 生徒の「理科の学習に対する意欲・態度等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
73	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	—	—	46.8	46.9	△
75	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いませんか	—	—	24.7	22.9	○
76	理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか	—	—	44.4	38.4	◎
77	理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか (※月1回以上)	—	—	67.2	83.9	▲
79	理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	—	—	53.1	55.0	△
80	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか	—	—	63.4	67.2	△
81	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	—	—	52.4	55.0	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

表 35 生徒の「調査問題（理科）の解答状況」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
82	解答を文章などで書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか	—	—	49.2	51.8	△
87	解答時間は十分でしたか (※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答)	—	—	84.4	85.3	△

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

# 学校質問紙

表 36 「理科の指導方法」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

H27 質問 番号	質 問	H25 鈴鹿市	H26 鈴鹿市	H27 鈴鹿市	H27 全国 (公立)	H27 全国 平均 との差
69	前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	—	—	60.0	78.8	▲
70	前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	—	—	60.0	62.5	△
71	前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	—	—	90.0	88.1	○
72	前年度までに、生徒が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか	—	—	80.0	79.4	○
73	前年度までに、自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行いましたか	—	—	50.0	65.8	▲
74	前年度までに、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行いましたか	—	—	100	91.3	◎
75	前年度までに、観察や実験のレポートの作成方法に関する指導を行いましたか	—	—	80.0	76.9	○
76	理科の授業やその準備において、前年度に、観察実験補助員が配置されていたか	—	—	0	3.7	△
77	前年度に理科室で児童が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか(※月1回以上)	—	—	100	96.3	○
58	前年度に、チームティーチングによる指導を行いましたか	—	—	0	14.7	▲
49	前年度に、理科の授業において、コンピュータ等の情報通信技術(パソコン(タブレット端末を含む)、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなど)を活用した授業を行いましたか	—	—	20.0	53.9	▲

※全国平均との差 ▲<-5≤△<0≤○<+5≤◎

